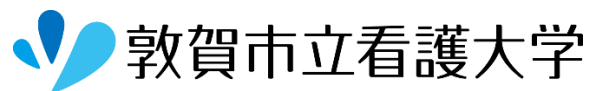


敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

令和7年度

地域・在宅ケア研究センター



はじめに

地域・在宅ケア研究センター(以下、研究センター)は、敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として、平成26年(2014年)4月に設置されました。これまで、研究センターは、地域住民の健康づくり支援、看護職の研究支援、地域活動・研究の情報発信、学生等のボランティア活動支援を柱にして地域貢献事業に取り組んできました。

令和7年度は、これまで健康教育に力を入れてきた高齢世代のみならず、子育て世代や現役世代等の幅広い世代に対してアプローチできる態勢を整えるため、研究センターの施設、設備の充実を図り、新たな教育機器等を導入し、研究センターの整備を行いました。

研究センターの設置の理念と今まで培ってきた事業を継承しつつ、さらに充実、発展すべく、研究センター運営委員、地域・在宅サポート隊(研究センターの運営に協力する学生ボランティア)が一丸となり、事業の企画・運営を行ってきました。

今年度は地域・在宅サポート隊に71名という多くの院生、学部生が参加してくれました。研究センター事業である健康講座等における住民へのかかわりだけではなく、学生自らが主体的に企画・運営した活動も多くありました。

また、昨年度から継続した原区のコスモス祭りの活動を通して原区住民との交流を深めることができました。さらに、地元高校の生徒とコスモス祭りの企画・運営を協働する機会にも恵まれました。さらに、未来協働プラットフォームふくい推進事業の助成を受け、原区での健康調査を行い、その結果をもとに住民と一緒に「健康課題を考える会」を実施しました。今後、地域特性をいかし、研究センターと地域住民の協働による健康問題解決モデルを検討していく予定です。

研究センターは、地域住民の健康づくり支援などの事業を通して、地域住民、関係諸機関と連携をとりながら、地域に根差した敦賀市立看護大学の地域貢献活動を発展させていきたいと考えています。

令和8年3月
地域・在宅ケア研究センター長
新田 紀枝

目 次

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要	1
1. 地域・在宅ケア研究センター設置の目的	
2. 地域・在宅ケア研究センターの事業	
3. 組織構成	
II. 住民の健康づくり支援	2
1. 看護大学健康講座	
2. 出張講演	
3. 敦賀市の事業への協力	
4. 敦賀市民の健康ニーズの把握	
5. 美浜町の事業への協力	
III. 看護職の研究支援	8
1. 看護研究方法論講座	
1) 看護研究研修会	
2) 看護研究グループ指導	
IV. 地域活動・研究の情報発信	12
1. 研究報告会	
V. 学生等のボランティア活動支援	17
1. 地域・在宅サポート隊の育成	
2. 地域ボランティア活動の窓口	
VI. その他	24
1. オープンキャンパス	
2. 認知症サポーター養成講座の開催	
3. まちの保健室	
4. 研究業績	

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要

1. 地域・在宅ケア研究センター設置の目的

地域・在宅ケア研究センターは、敦賀市立看護大学の地域貢献の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立されました。地域に根差し、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めます。また、地域における看護課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質の向上に寄与します。

2. 地域・在宅ケア研究センターの事業

地域・在宅ケア研究センターは、地域住民の健康づくり支援、看護職の研究支援、地域活動・研究の情報発信、学生等のボランティア活動支援などの地域貢献事業を行います。事業内容は図1に示す通りです。

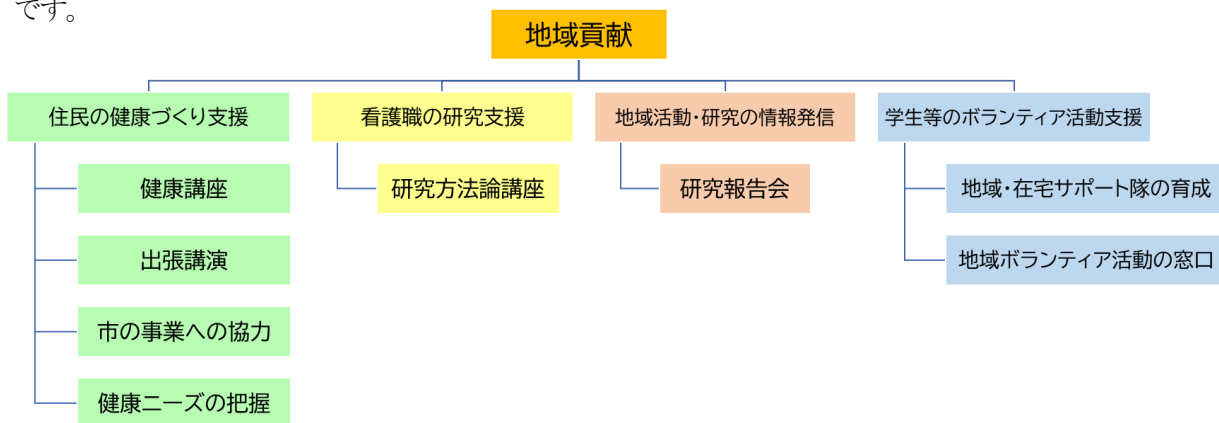


図1 地域・在宅ケア研究センターの事業内容

3. 組織構成

地域・在宅ケア研究センターの位置付けを図2に示しました。大学に直接附属する機関であり、メンバーは教職員全員です。

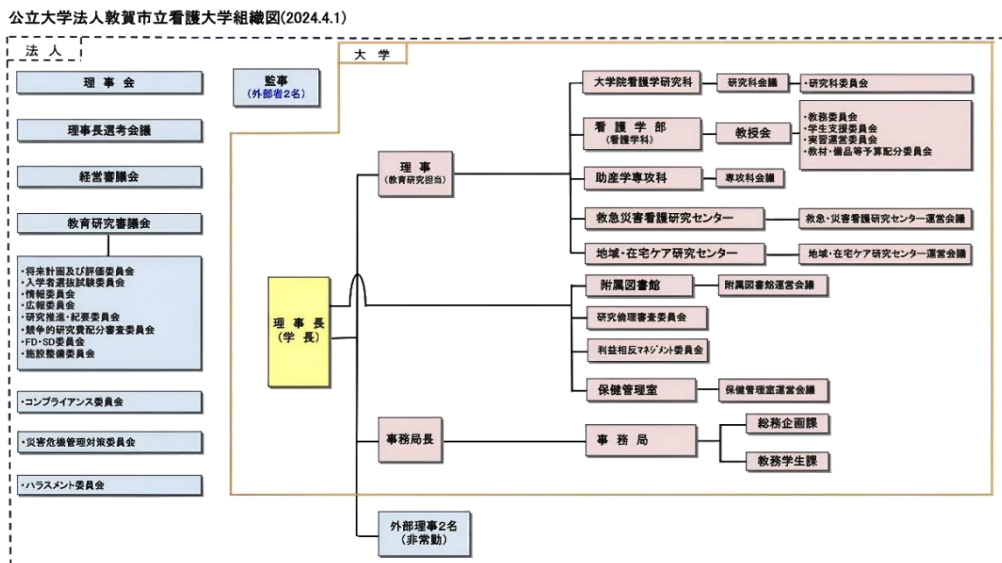


図2 地域・在宅ケア研究センターの組織構成

2) 看護大学健康講座まとめ

令和7年度は、学内で2回、学外で1回、計3回開催しました。

夏休み企画として身体に興味をもってもらい自由研究とつなげる、食育SATシステムを用いて栄養バランスを考える、からだとあたまを同時に使うデュアルタスクを体験する、とそれぞれ異なる事業内容を実施しました。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に身体や健康について考えてもらう機会となりました。

表II-2は、これまでの看護大学健康講座の参加者数の推移です。今年度は第1回ならびに第2回講座への参加者数が多く、看護大学健康講座への参加者数は延べ126名となりました。今後も「交流する場の提供」を目指して様々な企画を織り交ぜながら看護大学健康講座を継続していく予定です。

表II-2 看護大学健康講座 参加者数の推移

開催年度	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7
開催回数	1	4	4	4	3
延べ 参加者数	14	124	71	78 *教職員2名を含む	127 *教職員4名を含む



第1回『小学生の自由研究のヒント 血圧はいつも同じではない！』



第2回『クイズで確認！？栄養面から考える！あなたの食事は足りている？足りていない？』



第3回『筋力とバランスを鍛えて、転ばない体づくり！』

2. 出張講演

教員が地域に出向き、教養講座と健康講座を行っています。地域住民がグループ単位で申し込み、日時、場所等を調整したうえで実施しています。講演テーマは教員それぞれの知識と知恵を活かした内容となっています。令和7年度出張講演実施状況及び出張講演実施状況の推移は表II-3、表II-4に示す通りです。



表II-3 令和7年度出張講演実施状況

№	実施日	依頼団体	講演テーマ	講師	実施場所	受講人数
1	4月26日	原区老人会 (わいわいクラブ)	良い睡眠について	林 愛乃 助教	原ふれあい会館 (敦賀市)	14名
2	5月15日	北寿学級 (高齢者学級)	わたしに合った避難のかたちを考えよう ～地震編～	山崎 加代子 教授	北公民館 (敦賀市)	54名
3	6月30日	美浜町健康福祉課	笑いと健康 ～笑いと共に考える、みんなのココロと カラダに効く”クスリ”～	鈴木 隆史 講師	美浜町役場正庁	37名
4	7月31日	西児童クラブ	熱中症予防と対策	池原 弘展 教授 伊東 由康 准教授 山崎 加代子 教授	西児童クラブ (敦賀市)	43名
5	8月1日	敦賀市長寿健康課	私に合った避難を考えよう	山崎 加代子 教授	松原公民館 (敦賀市)	21名
6	8月7日	美浜西児童クラブ	だれかがたおれたらどうするの？ ～いのちを守るためにできること～	伊東 由康 准教授 池原 弘展 教授 山崎 加代子 教授	南西郷公民館 (美浜町)	31名
7	9月29日	敦賀市健康推進課	避難所での健康づくり	池原 弘展 教授	健康センター (はびふる)	11名
8	10月9日	松原公民館 (高齢者健康教室)	「ぐっすり眠って元気に毎日を！」 ～年齢とともに変わる眠りと上手につき あうコツ～	林 愛乃 講師	松原公民館 (敦賀市)	46名
9	10月25日	木崎区自主防災会	今からできる！安全・安心・健康をつな ぐ 災害時の避難プラン	山崎 加代子 教授	本学体育館	26名
10	11月18日	愛老会 (相生町老人クラブ)	認知症のサインに気づくためのコミュニ ケーション	井上 聡子 教授	相生町会館 (敦賀市)	16名
11	12月3日	敦賀セメント運輸 株式会社	暮らしの中の感染対策	池原 弘展 教授	敦賀セメント 工場内会議室	34名
12	1月30日	整和会	笑いと健康	鈴木 隆史 講師	あみや旅館 (敦賀市)	29名
13	3月3日	西公民館 (西寿学級)	からだのリズムと健康	林 愛乃 講師	西公民館 (敦賀市)	35名
14	3月5日	美浜町健康福祉課	こころの健康 ～笑いが心身の健康に与える影響とは～	鈴木 隆史 講師	佐田公民館 (美浜町)	15名
15	3月18日	榎川ことぶき会	低栄養予防 ～栄養など食事の大切さについて～	野里 侑加 助手	榎川会館 (敦賀市)	22名

表II-4 出張講演実施状況の推移

回数・参加者数	年度	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
開催回数		3	5	8	9	15
参加者数		102	302	258	382	434



3. 敦賀市の事業への協力

敦賀市では、平成28年度から介護予防事業として「女性のための元気づくり講座」（全5回）、「男性のための元気づくり講座」（全5回）が実施されています。また、認知症、健康に関する情報交換、相談の場として「敦賀つながりカフェ」（全9回）が開催されています。

令和7年度は、それぞれ各1回の講義依頼に協力しました。内容は以下の通りです。

1) 男性のための元気づくり講座

- (1)実施日 令和7年7月24日（木）
- (2)テーマ オリジナルの元気づくりを考えてみましょう！
- (3)講師 川口 桂嗣 講師
- (4)参加者 15名
- (5)参加者の感想



- ・とてもわかりやすく受講でき、ちょっとした運動もよかった。
- ・先生の講座はわかりやすく楽しかったので、年1回と言わず月1回でもやっていただければ、喜んで参加させていただきます。

(写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました)

2) 敦賀つながりカフェ

- (1)実施日 令和7年8月8日（金）
- (2)テーマ 認知症予防～心も体も健康に～
- (3)講師 横山 浩誉 講師
- (4)参加者 26名
- (5)参加者の感想



- ・耳、目、口が大事だと思いました。
- ・やっぱりつながりが大事だと感じました。

(写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました)

3) 女性のための元気づくり講座

- (1)実施日 令和7年9月26日（金）
- (2)テーマ ロコモティブシンドロームとフレイルについて
- (3)講師 鈴木 隆史 講師
- (4)参加者 24名
- (5)参加者の感想



- ・散歩をしながら、自分の体の動きが良くなったと感じる。
- ・体操を続けることが大切と分かったので、やる気が出てきた。

(写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました)

4. 敦賀市民の健康ニーズの把握

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、Web 上で公開されている市町別の衛生統計及び敦賀市の「第3次健康つるが21」「敦賀市国民健康保険 第3期敦賀市データヘルス計画」「つるが安心お達者プラン9」などにより健康、介護・福祉の情報の収集を行うとともに、市健康推進課、長寿健康課との連携に努めています。

また、令和6年度から「未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）*の助成を受け、原区住民を対象にした健康調査を実施しています。

今後も、敦賀市民の健康に関する情報を継続して集積して分析を深め、地域の健康課題を明らかにし、敦賀市と協働して地域に根ざした健康づくりについて模索し、センターの事業に反映していきたいと考えています。なお、令和7年度健康調査の実施状況の推移は表II-5に示す通りです。

表II-5 令和7年度 健康調査の実施状況

No	実施日	事業名	活動内容	対象者	参加数
1	7月5日	健康調査説明会	健康調査の事前説明とアンケートの実施	原区役員会	15名
2	7月17日	健康調査説明会	健康調査の事前説明とアンケートの実施	原区长寿の会	11名
3	9月13日	健康調査結果説明会	健康調査の結果説明	原区役員会	13名
4	9月16日	健康の取り組みを一緒に考える会	健康調査の結果説明と健康課題解決策の検討	原区长寿の会	7名
5	11月11日	足趾筋力測定会	足趾の握力測定の実施	原区长寿の会	10名

*未来協働プラットフォームふくいは、県内大学等と産業界・医療界・金融界・自治体からなる新たな協議体として、令和3年11月29日に県主導で構築した連携組織です。これは「知と人材の集積拠点」である県内全ての高等教育機関の力を福井県の地方創生に活かすことを目的とした事業です。

5. 美浜町への事業協力

美浜町では、地域に暮らす病弱や寝たきり、ひとり暮らしなどの高齢者を定期的に訪問し、「話し相手」になることによって暮らしの支え合い活動を行う「老人家庭相談員」を養成するための研修会が開催されており、本学からは隔年で講師の派遣をしています。内容は以下の通りです。

1) 「老人家庭相談員研修会」

- (1) 実施日 令和8年3月6日（金）
- (2) 会場 美浜町保健福祉センターはあとぴあ
- (3) テーマ 口腔ケアの必要性とケアの実際
- (4) 講師 新田 紀枝 教授
池原 知美 講師
地域・在宅サポート隊 6名
- (5) 参加者 15名



III. 看護職の研究支援

1. 看護研究方法論講座

今年度も福井県看護協会との共催により、「看護研究研修会」と「看護研究グループ指導」を開講しました。

福井県看護協会 学会委員会・教育委員会事業
×
敦賀市立看護大学地域・在宅ケア研究センター事業

令和7年度 あなたの研究で看護ケアを開発してみませんか？ 看護研究方法論講座

福南地域の看護職者の研究を推進、支援します。

国民のニーズの多様化や医療等を取り巻く環境の変化、地域包括ケアシステム推進の観点から看護職者の役割は増大しています。このため、看護の充実と発展のために看護ケアの開発や効果の検証、看護業務の改善につながる研究が必要です。

まずは、研究方法の基本を学び、楽しく看護研究に取り組む第一歩を踏み出しましょう。



公益社団法人 **福井県看護協会**
敦賀市立看護大学
地域・在宅ケア研究センター

福井県看護学会 学会委員会 看護学会サポート企画

看護研究

令和7年度
グループ指導受講募集のご案内

継続的に指導をうけて、
第42回（令和8年度）福井県看護学会で発表しよう

令和7年度 1年間のスケジュール

第1回 4月	はじめよう！看護研究 ～基礎編～研修受講
第2回 5月	やってみよう！看護研究 ～実践編～研修受講
第3回 6月	担当講師と初回面談
第4回 6月以降	以降、4～5回、適宜担当 講師から指導を受けます
令和8年 3月	学会委員会企画研修 「誰も教えてくれない抄録の 書き方、スライドのつくり方」 本学集の最後のサポートに なります

令和8年3月末 第42回福井県看護学会申込
令和8年9月 第42回福井県看護学会で発表

予定担当講師
福井大学医学部看護学科
福井県立大学看護福祉学部看護学科
敦賀市立看護大学

受講条件
福井県看護協会会員
令和8年度福井県看護学会に
発表できる方

定員 8グループ

申込多数の場合は、お断りすることがあります。
*4月・5月の看護研究の研修と翌年3月の研修は原則受講してください。
(グループ代表の受講でも可)

★受講料 24,000円
★申込方法 専用申込書にて
e-mail
kyouiku@kango-fukui.com

申込締切
令和7年2月17日(月)

福井県看護協会 教育委員会研修のご案内

看護研究への苦手意識ありませんか？
研究の基本が楽しく学べます！

はじめよう！看護研究 ～基礎編～

日々の業務や臨床現場で感じている疑問や課題を看護研究としてまとめることが、看護の質の向上や自身のスキルアップにもつながります。

まずは、「基礎編」で、看護研究の基本となる研究企画書の作成ができるようになることを目標に、学んでみましょう！
(この研修は、基礎編・実践編の2回シリーズの1回目です)

嶺北会場	嶺南会場
日時 令和7年4月15日(火) 9:30～15:30	日時 令和7年4月26日(土) 9:30～15:30
場所 福井県看護協会	場所 敦賀市立看護大学
講師 福井大学医学部看護学科 教授 上原 佳子氏	講師 敦賀市立看護大学看護学部看護学科 教授 新田 紀枝氏
定員 70名	定員 50名

嶺北・嶺南会場2会場で開催します。(内容は同じです)

内容 看護研究の意義と基礎知識、研究プロセス、テーマ設定、文献レビュー、研究企画書作成

対象 看護研究に興味のある方、看護研究初心者の方、支援者の方等

受講料 会員 4,000円 非会員 10,000円

申込方法 manaable(マナブル)からお申し込みください。
詳細は福井県看護協会HPをご参照ください。

申込期間 令和7年3月5日(水)～3月25日(火)

注意事項
受講料入金後に受講をキャンセルされる場合は返金はいたしませんのでご了承ください。

主催 福井県看護協会 TEL (0776)54-7103(代表) (0776)43-9311(看護教育課直通)

共催 敦賀市立看護大学(嶺南会場)

福井県看護協会 教育委員会研修のご案内

看護研究ってどう進めればいいのか？
具体的な進め方の方学べます！

やってみよう！看護研究 ～実践編～

今回の「実践編」では、企画書作成後の研究の進め方や研究方法の基本、特に量的研究と質的研究について、具体的に学んでいきましょう！
(この研修は、基礎編・実践編の2回シリーズの2回目です)

嶺北会場	嶺南会場
日時 令和7年5月29日(木) 9:30～15:30	日時 令和7年5月17日(土) 9:30～15:30
場所 福井県看護協会	場所 敦賀市立看護大学
講師 福井大学医学部看護学科 教授 上原 佳子氏 講師 磯波 利圭氏	講師 敦賀市立看護大学看護学部看護学科 教授 伊部 亜希氏 教授 井上 聡子氏
定員 70名	定員 50名

嶺北・嶺南会場2会場で開催します。(内容は同じです)

内容 演繹的アプローチ(量的研究)と帰納的アプローチ(質的研究)による研究方法について
※インタビュー演習あり(嶺北会場)

対象 看護研究に興味のある方、看護研究初心者の方、支援者の方等

受講料 会員 4,000円 非会員 10,000円

申込方法 manaable(マナブル)からお申し込みください。
詳細はHPをご参照ください。

申込期間 令和7年3月5日(水)～4月30日(水)

注意事項
受講料入金後に受講をキャンセルされる場合は返金はいたしませんのでご了承ください。

主催 福井県看護協会 TEL (0776)54-7103(代表) (0776)43-9311(看護教育課直通)

共催 敦賀市立看護大学(嶺南会場)

1) 看護研究研修会

令和7年度は、下記の通り（表Ⅲ-1）看護研究研修会を実施しました。同研修会は第1回「はじめよう！看護研究～基礎編～」、第2回「やってみよう！看護研究～実践編～」の2日間で行われました。

表Ⅲ-1 令和7年度 看護研究研修会の概要

日時		内容	担当
第1回 はじめよう！ 看護研究 ～基礎編～ 4/26(土)	9:30-11:55(145分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義 2. 看護研究の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・研究プロセス ・テーマ設定 ・文献レビューの方法 ・研究目的と研究デザイン 	新田 紀枝 教授
	13:00-15:30(150分)	<ol style="list-style-type: none"> 3. 研究企画書(研究計画書)の書き方 <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の意義 ・研究計画書の内容 ・研究計画書作成のポイント ・看護研究における倫理的配慮 ・参考図書を紹介 	
第2回 やってみよう！ 看護研究 ～実践編～ 5/17(土)	9:30-11:55(145分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・量的に捉える ・量的研究のよさ 2. 分析方法に関するワーク <ul style="list-style-type: none"> ・何で測るのか？ ・得られた数値から分かることは？ ・「測るもの」尺度とは？ ・検定方法について ・研究計画書の作成方法について 	伊部 亜希 教授
	13:00-15:25(145分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的研究とは <ul style="list-style-type: none"> ・質的研究法の特徴 ・量的研究との違い ・質的研究の種類 2. 質的研究のプロセス <ul style="list-style-type: none"> ・準備 ・テーマの絞り込み方 ・データ収集 ・分析の流れ ・分析結果のまとめ方 ・真実性を高めるためには 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー法 ・データのまとめ方 	

令和7年度の講座には、敦賀市内外の医療機関から延べ28人の看護師および助産師が受講されました。本学が独自に開催した看護研究方法論講座《入門講座》を含む過去5年分の受講者数の推移は、表III-2に示す通りです。

受講者の53.5%が経験年数10年未満でした。また、職種別でみると看護師89.3%、助産師10.7%の割合となりました。アンケートによると、研修内容の理解について89.3%の受講者が「大変理解できた」「理解できた」と回答しました。また、今後の役立ちについて96.4%の受講者が「大変役に立つ」「役に立つ」と回答しました。以下に寄せられたコメントを示します。

- ・個別にリサーチクエストを吟味してもらえたので方向性のある程度絞ることができた。
- ・看護研究を前回は20年ほど前なので、忘れていた事ばかりで、研修を受けて再度学び直しが出来てよかった。

表III-2 入門講座および看護研究研修会の受講者数推移

開催年度	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	備考
講座開催日数	3日 ※R4.5,6月	3日	※	2日	2日	※新型コロナウイルス感染症等によりR3年度は次年度に延期した。R5年度は福井県看護協会との調整により開催中止とした。
延べ受講者数	80	27	※	22	28	



《第1回 はじめよう！看護研究～基礎編～》



《第2回 やってみよう！看護研究～実践編～》

2) 看護研究グループ指導

看護研究研修会の受講者から2件(表III-3 No.1,2)の研究指導の申込があり、研究グループ指導を行いました。また、看護研究研修会の受講者以外に7件(表III-3 No.3-12)の看護研究指導を行いました。過去5年の研究サポート及び看護研究グループ指導の実績と推移は表III-3 および表III-4に示す通りです。

表III-3 令和7年度看護研究グループ指導の実績

No.	テーマ	施設名	担当教員
1	重症心身障害児(者)病棟で看護師が口腔ケアに困難を感じている患者への取り組み	敦賀医療センター ひまわり病棟3階(小児科)	伊部 亜希 教授
2	看取り場面での若手看護師の心理状況	杉田玄白記念公立小浜病院 本館6階 内科・小児科	伊東 由康 准教授
3	看護師と患者の睡眠評価の検討 ～A病院におけるリチャーズ・キャンベル睡眠評価表を用いた分析～	杉田玄白記念公立小浜病院 救命救急センター2階	池原 弘展 教授
4	治療選択に難渋した患者に対する患者の意思決定能力を信じた認定看護師のかかわり	市立敦賀病院	岡本 禎晃 教授
5	”生きる”ことを考えた末期心不全へのACPの関わり ～自宅退院を実現できた事例～		
6	明るく・楽しく・自分らしい最期を考える 「サイ五郎さんちの人生会議」を用いたACPの普及啓発活動		
7	自宅の2階の部屋に帰りたい～予後を伝えることで本人の希望が実現できた1例～		
8	口腔内の難治性疼痛を抱えるがん患者の自宅退院に向けた関わり～多職種連携による症状緩和への取り組み～		
9	ミルタザピンの投与で難治性の突出痛に対するレスキュー薬の使用回数が減少した症例		
10	意識レベルが変動する中で、本人の希望を支えることができた1事例～家族にカニを剥いてあげたい～		
11	予後の認識の乖離がある中でA氏の死生観に寄り添い得た学び		
12	持続的深い鎮静にいたる過程の難しさを実感した事例		

表III-4 研究サポートおよび看護研究グループ指導の実績推移

開催年度	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7
件数	7件	11件	8件	1件	12件

3) 看護研究方法論講座まとめ

看護研究研修会の受講者以外でも、実習施設等の看護職者に対して、本学教員による研究指導が活発にされるようになってきました。嶺南地域の看護職者が看護研究方法論講座に参加しやすいように受講形態等を見直すとともに、各医療機関で新たな研究テーマが立ち上げられる際には本事業を活用していただけるよう、引き続き周知していきます。今後も、敦賀市内はもちろん、嶺南地域の看護職の看護研究や学会発表等をサポートし、看護のレベル向上に寄与できるよう取り組んでいきます。

IV. 地域活動・研究の情報発信

1. 研究報告会

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的に、大学や医療機関等による研究、現場での実践活動、地域住民の関心が交差する「学びと交流の場」として、研究報告会を開催しています。本学教員の研究成果や地域の看護職の研究、実践活動の報告が行われました。

1) 研究報告会の実施

令和7年9月27日（土）に第8回敦賀市立看護大学研究報告会を開催しました。表IV-1の通り15題の演題申し込みがあり（学外8題、学内7題）、研究成果や実践報告の口頭発表が2部構成で行われました。参加者は121名（演者22名、一般28名、学生52名、教職員19名）でした。

表IV-1 第8回敦賀市立看護大学研究報告会プログラム (敬称略)

13:35 -14:25	第1部 活動報告(前半) 座長 横山 浩誉 (敦賀市立看護大学)		
	セル看護提供方式®導入によるA病棟の感染対策への有効性について	高野 良介	国立病院機構敦賀医療センター
	質の高い看護の提供に向けた看護部教育の取り組み	西本 聖子	国立病院機構敦賀医療センター
	副看護師長会の取り組み ～前向きな姿勢を強めるための実践とマインドセットの共有～	山下 佳美	市立敦賀病院 看護部
	敦賀消防団機能別班（学生消防団）の活動報告	上野 美景 内田 加那子 佐々木 香菜子	敦賀市立看護大学 敦賀消防団機能別班（学生消防団）
	地域・在宅ケア研究センター 「地域・在宅サポート隊」活動報告	増田 希望 三屋 文佳 山田 果林 北村 真湖 佐藤 綺香	敦賀市立看護大学 地域・在宅サポート隊
休憩 (10分)			
14:35 -15:25	第1部 活動報告(後半) 座長 岡本 禎晃 (敦賀市立看護大学)		
	がんピアサポーターとしての活動	笹山 伸子	れでい♡がん
	ACPの活動報告 ～あんしん連携ファイルを使用して～	山路 香織	指定訪問看護ステーションめいほう
	AdvanceCarePlanning 敦賀医療センターの取り組み	上菌 恵子	国立病院機構敦賀医療センター
	明るく・楽しく・自分らしい最後を考える 「サイ五郎さんちの人生会議」を用いたACPの普及啓発活動	田辺 靖晶	市立敦賀病院 医療支援部
	～あなたの思い～を大切にしたい認知症者と看護学生ボランティアとの世代間交流	清水 優花 山本 妃那子	敦賀市立看護大学
休憩 (10分)			
15:35 -16:25	第2部 研究報告 座長 新田 紀枝 (敦賀市立看護大学)		
	回復期における高齢患者への離床活動の効果	江草 宏	医療法人保仁会 泉ヶ丘病院
	NICU看護における父親の育児支援ニーズと看護者による効果的な関わりの検討	内江 希	敦賀市立看護大学
	人工知能（大規模言語モデル）による文献スクリーニングはスコアレビューに適用可能か？	伊東 由康	敦賀市立看護大学
	要介護高齢者における睡眠状況と日中の活動量との関係	伊部 亜希	敦賀市立看護大学
	授業「ヘルスリテラシー」の教育効果の検証	池原 弘展	敦賀市立看護大学

常設	ポスター発表（掲載順不同）		
	分娩第2期の児頭娩出時における熟練助産師と初学者の視線についての比較	内江 希	本学教員
	超高齢地域における看護学生と住民の協働 まちおこしイベントを通じた実践による学び	川口 桂嗣	本学教員
	成人看護技術演習における臨床看護師とのユニフィケーションモデルによる学生の満足感に関連する要因の評価	野沢 和也	本学教員
	隠れた感染源：感染症予防における爪の衛生の役割	錦古里 雅子	2024年度 卒業生
	地震発生時の役割行動に対する看護学生の考えと地域愛着の関連に関する研究	青山 綾花	2024年度 卒業生
	発達障害を持つ小児に対する看護師の現状と課題 文献レビューによる分析	伊井野 愛美	2024年度 卒業生
	児童発達支援センターで働く看護師の実践内容	石塚 笑良	2024年度 卒業生
	在宅看護学実習Ⅱ履修者の選択理由・学び・意識・進路志向・実習に対する満足に関する研究	石橋 怜華	2024年度 卒業生
	応用3分野において在宅看護学分野を第一希望としなかった学生の在宅看護学実習Ⅱ履修後の進路志向や関心、意識の変化と学習満足度	石濱 梨子	2024年度 卒業生
	10～20歳代女性におけるHPVワクチン接種の現状と課題に対する文献検討	奥谷 瑞羽	2024年度 卒業生
	統合失調症者に対する音楽療法の研究動向	多賀 愛梨	2024年度 卒業生
	若者のマッチングアプリの利用と梅毒感染拡大に関する文献検討	羽兼 李花	2024年度 卒業生
	高齢化する日本で中高年のひきこもりをどう支えるか,求められる看護職の役割についての一考察	藤井 桃香	2024年度 卒業生
	集中治療系病棟へ配属された新卒看護師のトランジションショック	宮本 志歩	2024年度 卒業生
	高齢男性の社会的孤立の要因と予防についての一考察 ～地域における高齢男性に関する文献レビューを通して～	山本 詩織	2024年度 卒業生
	看護学実習における学生の困難感の傾向の文献レビュー 評価懸念に着目した学生が学びを深める環境とは	山本 莉公	2024年度 卒業生

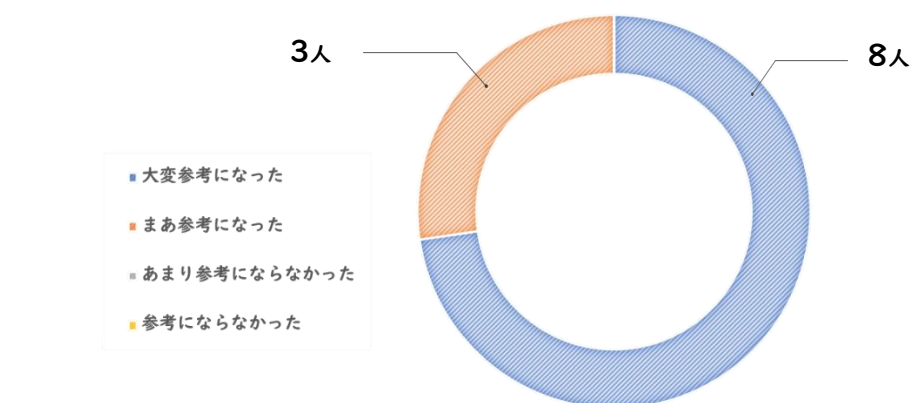
2) 研究報告会の評価

参加者（学生）のアンケート結果は、以下の通りです。また、これまでの演題数および参加者数は表IV-2に示す通りです。

1. 参加者：52名(回収数11、回収率21.2%) ※発表者10名を除く

学生	1年生	2年生	3年生	4年生	大学院生
人数	4	1	44	2	1
割合(%)	7.7	1.9	84.6	3.9	1.9

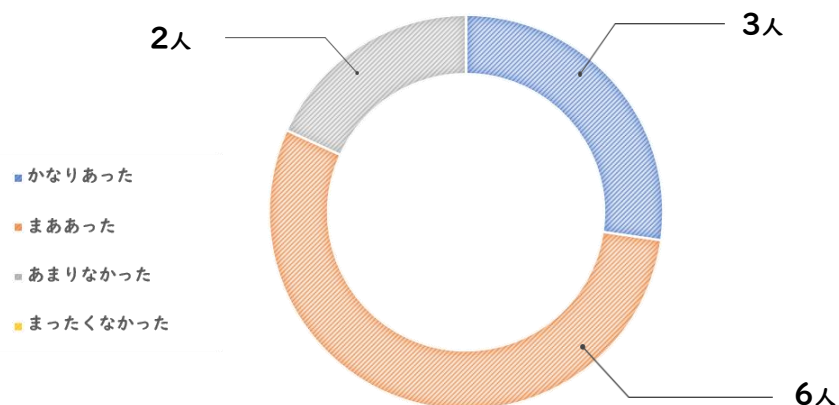
2. 卒業研究・看護研究に向けて参考になりましたか？



■参考になったところ

- ・ 研究の内容や仕方について参考になった。
- ・ 普段、学生や先生方がどのような活動や研究をしているのかが分かった。
- ・ 発表時間を合わせることに。
- ・ 発表の流れ。
- ・ 研究のポスターや研究発表の仕方、質問が参考になった。
- ・ 発表方法、4年生になった時に卒業論文の参考になった
- ・ どのようなテーマで研究をしているのか知ることができた。
- ・ 研究のまとめ方について学べた。
- ・ 自分がどの分野、研究をしたいか。

3. 興味深い内容はありましたか？



■興味深かった内容

- ・ セル看護提供方式が、感染症対策に役立てられるのが興味深かった。
- ・ 人工知能による文献スクリーニングの適用性、睡眠状況と日中の活動量との関係。
- ・ 睡眠状況と活動量についての研究が看護を行う上で役立ちそうだったため、興味深いと思った。
- ・ がんピアサポートのがんに対しての知識の普及やがんについての話し合いについて興味深かった。
- ・ ACPの活動を普及させることで、事前に家族で話し合い意思決定の支えとなると分かったため、ACPの重要性を学ぶことができた。
- ・ 教職員の方がガンサポーターとしての活動されている報告。実際にガンになった人だから発信できる言葉の強さを感じました。

■感想

- ・ いろいろな発表が聞けてよかった、卒論に活かしたいと思う。
- ・ 来年の自分自身の卒業研究の参考にしたい。
- ・ 研究をどのように進めていくのかイメージできて参考になった。
- ・ 発表の流れを見れたので勉強になりました。
- ・ 色んな視点での研究結果を知ることができてよかった。
- ・ いろいろな発表があったので自分の卒業研究をどうしていこうかと改めて考える機会になった。
- ・ 研究発表が興味深かった。
- ・ 勉強になりました。
- ・ 学びが多くいい経験になりました、卒業研究にもいかしていきたいです。
- ・ 各施設での報告など、貴重な機会をありがとうございました。

《一般参加者》

■感想

- ・ これから、他職種の知識を知ったうえで連携することが求められると思うきっかけになった。
- ・ 高校生として分からない事だらけですが、患者さんの意志を配慮出来る支援を将来看護師として行いたいと思いました。自分自身も認知症サポーターを利用し、認知症カフェなどの認知症ボランティアに参加し高齢者と関われる機会を増やしていきたいです。
- ・ 看護職が長いベテランの方々も心強いが今から巣立つ若い看護学生さんの将来にも希望がもてました。

表IV-2 敦賀市立看護大学研究報告会 演題数・参加者数の推移

年度	2021*	2022	2023	2024	2025
演題数・参加者数	(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)
演題数	8	(中止)	10	11	15
参加者数	115		160	151	121

*参加者数に報告者以外の教職員は含まれず

3) 研究報告会まとめ

卒業研究のポスター発表は昨年度に引き続いての取り組みでしたが、在學生、参加者に成果を周知する機会となりました。報告会に参加した学生からは、「研究的視点の触発」「卒業研究に生かせる」などの意見が得られ、学生の研究への関心を高める教育的な機会となっていることが伺えました。また、発表全体を通し、一般参加者にとっても、「多様な専門職領域を横断する学術的・実践的知見に触れる機会」「自身の看護職としての将来像イメージの機会」となっていました。

今後も本報告会が、報告者、参加者双方の理解と交流の機会となり、地域での研究活動がより推進されることを目指していきます。



《研究報告会の様子》

V. 学生等のボランティア活動支援

1. 地域・在宅サポート隊の育成

1) 地域・在宅サポート隊養成講座の開催計画と実施

前年度に引き続き、令和7年度も“学生が地域を理解し、住民と一緒に学べる場を作る”ため、地域・在宅サポート隊養成講座を開催しました。今後も継続してゆく予定です。概要は表V-1に示す通りです。

表V-1 令和7年度地域・在宅サポート隊養成講座の概要

回	日時	場所	内容	講師	参加者数
第1回	4/30(水) 16:40-17:25	本学	講義 「サポート隊学生の役割について」	川口 桂嗣 講師	48名
第2回	6/12(木) 13:20-14:50	本学	グループディスカッション 「イベント企画の検討について」	川口 桂嗣 講師	33名
第3回	6/3(火) 13:00-16:30	敦賀市原区	フィールドワーク 「地域の理解(原区)」	川口 桂嗣 講師	8名
	7/1(火) 13:00-17:00			新田 紀枝 教授 川口 桂嗣 講師	15名
	7/6(日) 10:00-12:30	あいあいプラザ	ワークショップ 「白杖とアイマスクで感じる世界」	歩行訓練士 眞家 徹 氏 外2名	7名
	7/24(木) 15:00-16:30	本学	ワークショップ 「手で話そう、心でつながろう」	外部講師 遊津 貞美子氏	8名
	8/8(金) 10:00-11:30	本学	ワークショップ 「触れて伝える、点字名刺づくり」	外部講師 永井 敦子 氏 外2名	6名



2) 地域・在宅サポート隊による地域貢献活動

地域・在宅サポート隊養成講座での学びを踏まえて、学生自らが企画し、「コスモス祭り」と「すこやかマルシェ」に参加しました。また、地域課題へのアプローチのひとつとして「多世代交流イベント」を企画しました。今後も継続的に学生と地域の交流を深め、学生の学びの機会の確保と地域の活性化を図っていきます。なお、今年度の地域貢献活動状況は表V-2に、学年リーダー会の開催状況は表V-3に示す通りです。

表V-2 令和7年度 地域・在宅サポート隊の地域貢献活動状況

No	実施日	事業名	活動内容	実施場所	参加者数
1	8月17日	コスモスの種まき・意見交換会	コスモスの種まきと敦賀高校創生部との意見交換会	おお原の里・原区ふれあい会館	7名
2	8月18日	1年生企画準備	敦賀高等学校創生部とコスモス祭りに向けた打ち合わせ	敦賀高等学校	1名
3	9月9日	コスモス祭り 1年生企画準備	敦賀高等学校創生部とコスモス祭りに向けた打ち合わせ	敦賀高等学校	2名
4	9月30日	コスモス祭り 1年生企画準備	フォトスポット企画①の打ち合わせ	敦賀高等学校	4名
5	10月6日	コスモス祭り 1年生企画準備	フォトスポット企画③の準備	敦賀高等学校	5名
6	10月7日	コスモス祭り 1年生企画準備	フォトスポット企画①②の準備	敦賀高等学校	8名
7	10月9日	すこやかマルシェ 1・2年生企画準備	点字体験の準備／高齢者体験の準備	本学1階ロビー	5名 3名
8	10月9日	コスモス祭り 1・2年生企画準備	フォトスポット企画③の準備／コスモスせっけんの試作会	敦賀高等学校／ 地域・在宅ケア研究センター	3名 6名
9	10月10日	すこやかマルシェ 3年生企画準備	手話体験の準備	本学1階ロビー	3名
10	10月12日	すこやかマルシェ	学生企画の出展（点字体験、手話体験、高齢者体験）	きらめきみなと館	15名
11	10月14日	コスモス祭り 1年生企画準備	フォトスポット企画②の準備	敦賀高等学校	2名
12	10月16日	コスモス祭り 1年生企画準備	フォトスポット企画①②③の準備	敦賀高等学校	5名
13	10月19日	コスモス畑の雑草取り、 2年生企画準備	コスモス畑の雑草取り、 コスモス摘み取り／押し花づくり	おお原の里／ 地域・在宅ケア研究センター	7名 6名
14	10月20日	コスモス祭り 2年生企画準備	コスモスせっけん作り企画の準備	敦賀高等学校	5名
15	10月21日	コスモス祭り 1・2年生企画準備	フォトスポット企画①②③の準備／ コスモスせっけん作り企画の準備	敦賀高等学校／ 地域・在宅ケア研究センター	7名 5名
16	10月23日	コスモス祭り 1年生企画準備	フォトスポット企画①②③の準備	敦賀高等学校	8名
17	10月26日	コスモス祭り	学生企画の実施、原区の手伝い	新ふれあい会館 駐車場	26名
18	2月19日	多世代交流イベント	学生企画の実施（料理やレクリエーションを通じた地域交流）	原ふれあい会館・ 原多目的会館	16名



表V-3 令和7年度 地域・在宅サポート隊学年リーダー会の開催状況

回数	実施日	内容	実施場所	参加者数
第1回	7月4日	各イベント出展に向けた企画検討	地域・在宅ケア研究センター	4名
第2回	8月19日	各イベント出展に向けた企画検討	地域・在宅ケア研究センター	4名
第3回	9月25日	各イベント出展に向けた企画検討	地域・在宅ケア研究センター	4名
第4回	11月20日	多世代交流イベントの企画検討	地域・在宅ケア研究センター	3名
第5回	12月1日	多世代交流イベントの企画検討	地域・在宅ケア研究センター	3名
第6回	12月3日	きらきらクラブの情報収集	地域・在宅ケア研究センター	2名
第7回	12月8日	多世代交流イベントの企画検討	地域・在宅ケア研究センター	2名
第8回	12月15日	原区への企画説明と意見交換	地域・在宅ケア研究センター	2名
第9回	12月18日	多世代交流イベントの企画検討	地域・在宅ケア研究センター	2名
第10回	1月16日	多世代交流イベントの企画検討	地域・在宅ケア研究センター	2名
第11回	1月28日	原区と企画について意見交換	地域・在宅ケア研究センター	2名



地域・在宅サポート隊の主な活動は、「未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）」の助成を受けて実施しました。

3) 地域・在宅ケア研究センター事業へのサポート活動

健康講座や研究報告会、オープンキャンパス、健康調査といった地域・在宅ケア研究センターが実施する事業や研究に参加し、各種事業の運営をサポートしました。また、研究報告会では日ごろの活動について発表を行いました。今年度のセンター事業への参加状況は表V-4に示す通りです。

表V-4 令和7年度 地域・在宅ケア研究センター事業への参加状況

No	実施日	事業名	活動内容	実施場所	参加者数
1	5月22日	食育SATシステム貸出準備作業	食育SATシステムの食品サンプルの識別とカラーシールの貼付作業	地域・在宅ケア研究センター	1名
2	7月5日	原区健康調査	原区における健康調査のサポート	原区ふれあい会館	1名
3	7月17日	原区健康調査	原区における健康調査のサポート	原区ふれあい会館	5名
4	7月19日	オープンキャンパス	食育SATシステムを用いたセンター企画の運営サポート	地域・在宅ケア研究センター	26名
5	7月26日	第1回健康講座	小学生対象のミニ講義やミニ体験等の運営サポート	本学 教室B	18名
6	9月17日	健康の取り組みを一緒に考える会	原区における健康調査の結果説明と健康課題解決策の検討	原区ふれあい会館	4名
7	9月25日	第2回健康講座キックオフミーティング	健康講座に向けた学生企画の検討	地域・在宅ケア研究センター	6名
8	9月27日	オープンキャンパス	地域・在宅ケア研究センターの活動紹介	地域・在宅ケア研究センター	21名
9	9月27日	第8回研究報告会	演題発表(第1部 活動報告)	本学 大教室	5名
10	9月27日	第8回研究報告会	運営サポート(タイムキーパー、マイクランナー)	本学 大教室	6名
11	10月22日	第2回健康講座準備	健康講座に向けた学生企画の準備	地域・在宅ケア研究センター	4名
12	10月23日	第2回健康講座準備	健康講座に向けた学生企画の準備	地域・在宅ケア研究センター	4名
13	10月24日	第2回健康講座準備	健康講座に向けた学生企画の準備	地域・在宅ケア研究センター	4名
14	11月1日	第2回健康講座	学生企画の実施	地域・在宅ケア研究センター	9名
15	11月11日	足趾筋力測定会	原区长寿の会を対象とした足趾筋力測定のサポート	原区新ふれあい会館	1名
16	3月5日	第3回健康講座準備	レクリエーション企画のレクチャー	地域・在宅ケア研究センター	5名
17	3月6日	老人家庭相談員研修会	美浜町老人家庭相談員研修会におけるグループワークのサポート	美浜町保健福祉センターはあとびあ	6名
18	3月7日	第3回健康講座	レクリエーション企画のデモンストレーション、健康チェック	愛発公民館	5名



2. 地域ボランティア活動の窓口

1) ボランティア等への参加

地域のボランティア等への参加実績及び年次推移は表V-5、表V-6に示す通りです。

表V-5 令和7年度ボランティア等参加実績

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	4月20日	福井ユナイテッドFC 公式戦試合運営	福井ユナイテッド 株式会社	敦賀市総合運動公園 陸上競技場	総合案内およびグッズ 売り場	学生 3名
2	5月11日	美浜町五木ひろし ふるさとマラソン	救命ボランティア REM	美浜町 丹生特設会場	救護活動のサポート	学生 7名 教員 1名
3	6月1日	クリーンアップふくい 大作戦	敦賀市	気比の松原	海岸清掃	学生 2名
4	4月12日 5月10日 6月21日 7月26日 8月23日 11月22日 12月25日	「遊びと学び」塾	寺子屋 「遊びと学び」塾	栗野公民館ほか	学習ボランティア	学生 2名 学生 1名 学生 1名 学生 1名 学生 1名 学生 1名 学生 1名
5	8月2日	市立敦賀病院 健康応援フェスタ2025	市立敦賀病院 病院フェスタ実行委員会	市立敦賀病院	病院内のイベントの アシスタント	学生 2名
6	9月4日	つるが祭りにおける人 権啓発活動	敦賀市人権擁護委員 協議会	敦賀市神楽町 路上	人権啓発グッズの配 付など	学生 1名
7	9月10日 10月18日	親子のつどい広場 生き物タッチプール	子育てサポートセンター きらきらくらぶ	子育てサポートセンター こころん	参加者の子どもの見 守りと遊びの交流	学生 1名 学生 1名
8	9月19日	認知症ほっとけんまち敦賀	敦賀市長寿健康課	あいあいプラザ あいあいホール	吹奏楽サークルと教 員による演奏	学生 5名 教員 2名
9	10月21日	めいほう祭り	医療法人明峰会	明峰クリニック 介護施設 気比の風	お祭り屋台の運営補助	学生 4名
10	10月26日	コスモス祭り	敦賀市原区	敦賀市原区 新ふれあい会館	吹奏楽サークルと教 員による演奏	学生 5名 教員 2名
11	11月29日	日本安全運転医療学会	日本安全運転医療学会	プラザ萬象	学会スタッフ等	学生 3名
12	12月25日	市立敦賀病院 クリスマスコンサート	市立敦賀病院 CS部会	市立敦賀病院 正面玄関ホール	吹奏楽サークルと教 員による演奏	学生 5名 教員 2名
13	通年	人権ボランティア	福井地方法務局 福井県人権擁護委員連合会	県内各所	人権擁護啓発活動	学生 10名 (登録数)

表V-6 ボランティア等への参加実績の年次推移

	2021(R3)		2022(R4)		2023(R5)		2024(R6)		2025(R7)	
	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数
学 生	4	14	5	25	6	48	14	74	13	54
教職員	0	0	0	0	1	1	3	5	4	7

2) 敦賀市各種委員会等への参加

敦賀市が主催する行事や各種委員会への参加実績及び年次推移は表V-7、表V-8に示す通りです。

表V-7 敦賀市の各種委員会等への参加実績

No	実施日	委員会等名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	7月4日 ～ 7月19日	第27回参議院議員通常選挙 期日前投票	敦賀市 選挙管理委員会	期日前投票所	期日前投票立会人	学生7名
2	7月24日	第44回敦賀マラソン大会 参加記念品選定会	敦賀市教育委員会	敦賀市総合運動公園 体育館会議室	敦賀マラソン大会 参加記念品選定	学生2名
3	11月27日	敦賀市地域公共交通活性化協議会	敦賀市地域公共交通 活性化協議会	敦賀美方消防組合講堂	コミュニティバス 等の公共交通につ いての委員任命	学生1名

表V-8 敦賀市の各種委員会等への参加実績の年次推移

	2021 (R3)		2022 (R4)		2023 (R5)		2024 (R6)		2025 (R7)	
	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数
学 生	3	8	2	5	4	18	2	4	3	10

3) 地域行事等への参加実績

地域行事等への参加状況及び年次推移を表V-9、表V-10に示す通りです。

表V-9 地域行事等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者等	場所	内容	参加人数
1	10月26日	コスモス祭り	敦賀市原区	新ふれあい会館駐車場	コスモス祭りへの参加	学生31名 教員5名 職員2名

表V-10 地域行事等への参加実績の年次推移

	2021 (R3)		2022 (R4)		2023 (R5)		2024 (R6)		2025 (R7)	
	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数
学 生	1	11	0	0	1	4	4	35	1	26
教職員	1	1	0	0	0	0	4	27	1	5

VI. その他

1. オープンキャンパス

本学では開学以来、年に2回オープンキャンパスを開催しています。令和3年度からは、地域・在宅ケア研究センターの事業はもとより、事業に参加している学生の活動にも関心を高めてもらおうと、活動内容の展示等を行っています。今年度は「看護の力で地域を元気に！—地域に貢献できる力って何だろう—」と題し、高校生をはじめ、多くの来場者の方に活動を紹介しました。



2. 認知症サポーター養成講座の開催

認知症高齢者等にやさしい地域づくりの一環として、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成する目的で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。内容は以下の通りです。

- (1)実施日 令和7年4月21日(月)
- (2)テーマ 認知症を知る～認知症を正しく理解し、
やさしくよりそいましょう～
- (3)講師 福井県嶺南認知症疾患医療センター
室長 寺川 智浩 氏(医療法人敦賀温泉病院)
- (4)受講者 53名(本学2年生50名、教職員3名)



3. まちの保健室

地域・在宅ケア研究センターでは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした地域住民の心身の健康、子育て、生活習慣病予防、介護等の様々な不安や悩みに対して気軽に話せる場を提供し、また、健康に関する相談に応じて、地域住民に対する健康増進に寄与することを目的として、「まちの保健室」を開設します。

令和8年4月から本格的に開設する「まちの保健室」に先駆けて、キックオフイベントを開催しました。内容は以下の通りです。

- (1)実施日 令和8年3月24日(火)
- (2)場 所 本学 地域・在宅ケア研究センター
- (3)内 容
 - ①ミニ健康講座：講師 鈴木 隆史 講師
「春から始める 生活習慣の耳より話」
 - ②健康チェックコーナー：測定
身長・体重、握力、血圧、骨の健康チェック、
血管年齢、咀嚼力
 - ③体験コーナー：e-スポーツ体験
 - ④健康相談
- (4)参加者 7名



4. 研究業績

地域・在宅ケア研究センターにおける令和7年度の研究業績をまとめました。内容は以下の通りです。

1) 日本地域看護学会第28回学術集会

- (1)実施日 令和7年9月6日(土)～7日(日)
- (2)テーマ 地域共生社会のこれから～全ての人がつながりあう社会をつくる～
- (3)会場 日本赤十字看護大学 広尾キャンパス(東京都)
- (4)方式 示説発表

■一般演題(地域づくり・ソーシャルキャピタル)

超高齢地域における看護学生と住民の協働ーまちおこしイベントを通じた実践による学びー

○川口桂嗣、伊東由康、池原知美、鈴木隆史、佐々木綾子、高城絵美、新田紀枝。

2) 第30回日本在宅ケア学会学術集会

- (1)実施日 令和7年9月13日(土)～14日(日)
- (2)テーマ サイエンスとひとが創り出す在宅ケア
- (3)会場 千里ライフサイエンスセンター(大阪府)
- (4)方式 示説発表

■一般演題・実践報告(P2群 教育・人材育成-6)

看護学生による地域住民の互助意識醸成を目指した生活モデル的ACP実践への取り組み 認知症になっても住み慣れた地域での暮らしを営める地域づくり

○小野塚元子、家根明子、高城絵美、鈴木隆史、柳澤奈美、林祐一、木谷尚美

■一般演題・研究報告(P3群 地域包括ケア)

高齢者とともに行う認知症に強い地域づくりの実践ー高齢者の考えている自助・互助活動を中心にー

○家根明子、高城絵美、小野塚元子、鈴木隆史、柳澤奈美、林祐一、木谷尚美。



《日本地域看護学会第28回学術集会における示説発表の様子》



《日本在宅ケア学会学術集会における示説発表の様子》

令和7年度地域・在宅ケア研究センター運営会議 構成員

(○センター長、五十音順)

(運営委員) 池原知美、伊東由康、川口桂嗣、佐々木綾子、鈴木隆史、○新田紀枝、野里侑加
(事務局) 金森大輔、橋本薫

令和7年度地域・在宅サポート隊 (71名)

(○学年リーダー、五十音順)

- 1年生 泉本菜那、上野花菜、梅野結衣、大下絢葉、大橋奈央、尾下愛結、川上凜子、
北川玲奈、木原芹夏、黒井彩加、黒田彩七、○佐藤綺香、佐野美優、澤井夢子、
田代あみ、田端唯乃、藤内志帆、西田彩乃、野村優、長谷優希奈、松野しいら、
松村胡雪、山下奈々、山村花里奈、山本花音、吉田心々寧、吉本美咲
- 2年生 磯引莉緒、磯村薫、植木紅羽、魚住真帆、片岸まひる、北村真湖、黒木莉央、
桑島杏奈、○坂本梢、高木莉子、竹田彩夏、田中麻友、中出咲帆、藤井光、
堀内萌花、松川愛生、松村あおい、山田杏、横江佑香
- 3年生 開原弥佑、岡崎萌恵、甲斐静花、片岡実羽菜、軸原明日香、田邊那奈、玉腰萌衣、
天藤渚、中野礼芽、中村香里、西岡里帆、長谷川美七、福田ちひろ、細川愛華、
三屋文佳、宮部奈央、村田陽菜乃、彌氏香音、山崎初一音、○山田果林
- 4年生 岩井愛結、多田結生花、中村美晴、○増田希望
- 大学院 佐竹史帆

令和7年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

令和8年3月31日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500



敦賀市立看護大学
TSURUGA Nursing University